

傷あと治療

新橋美容クリニック・渋谷皮膚科クリニック

傷あとと治療について

はじめに

1. 傷あとについて

1. 傷と傷あと
2. 正常の傷あと
3. 傷あとの分類

2. 未成熟瘢痕の状態と治療

3. 成熟瘢痕（完全成熟瘢痕）の状態と治療

4. 異常瘢痕の状態と治療

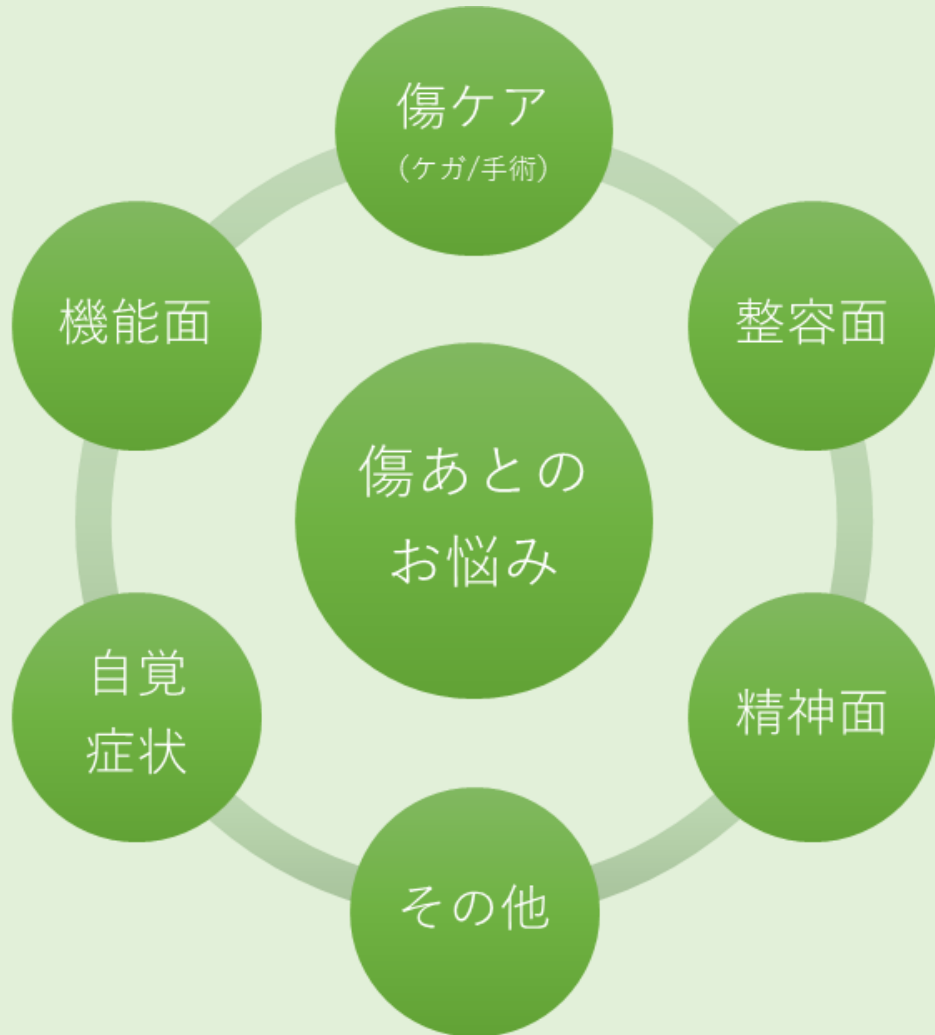
- 1 原因
- 2 ケロイド・肥厚性瘢痕
- 3 瘢痕拘縮
- 4 色
- 5 傷幅の広がり、ふくらみ、凹み

5. 治療の流れ

6. 医師LINE相談・予約方法

7. 費用目安

はじめに



手術やケガの「傷あと」のお悩みは様々で、治療の対象になります。

傷あとのお悩みの例

- **傷のケア**：ケガや手術後のケア方法
- **整容面**：赤みなどの色み、ふくらみ、凹み、醜状瘢痕、将来的な改善程度、など
- **機能面**：ひきつれ、瘢痕拘縮など
(特に気管切開術後のひきつれ)
- **精神面**：傷をみていると気分が落ち込む、他人からの視線が気になる
- **自覚症状**：かゆみや痛みなど
- **その他**：ケロイド体質、保険／自由診療

はじめに

傷あとでお悩みの方にとって、このホームページがメリットのあるものになることを願うとともに、
実際の診察にて、個々の患者さんに対しての適切な診断、治療を提供してまいります。

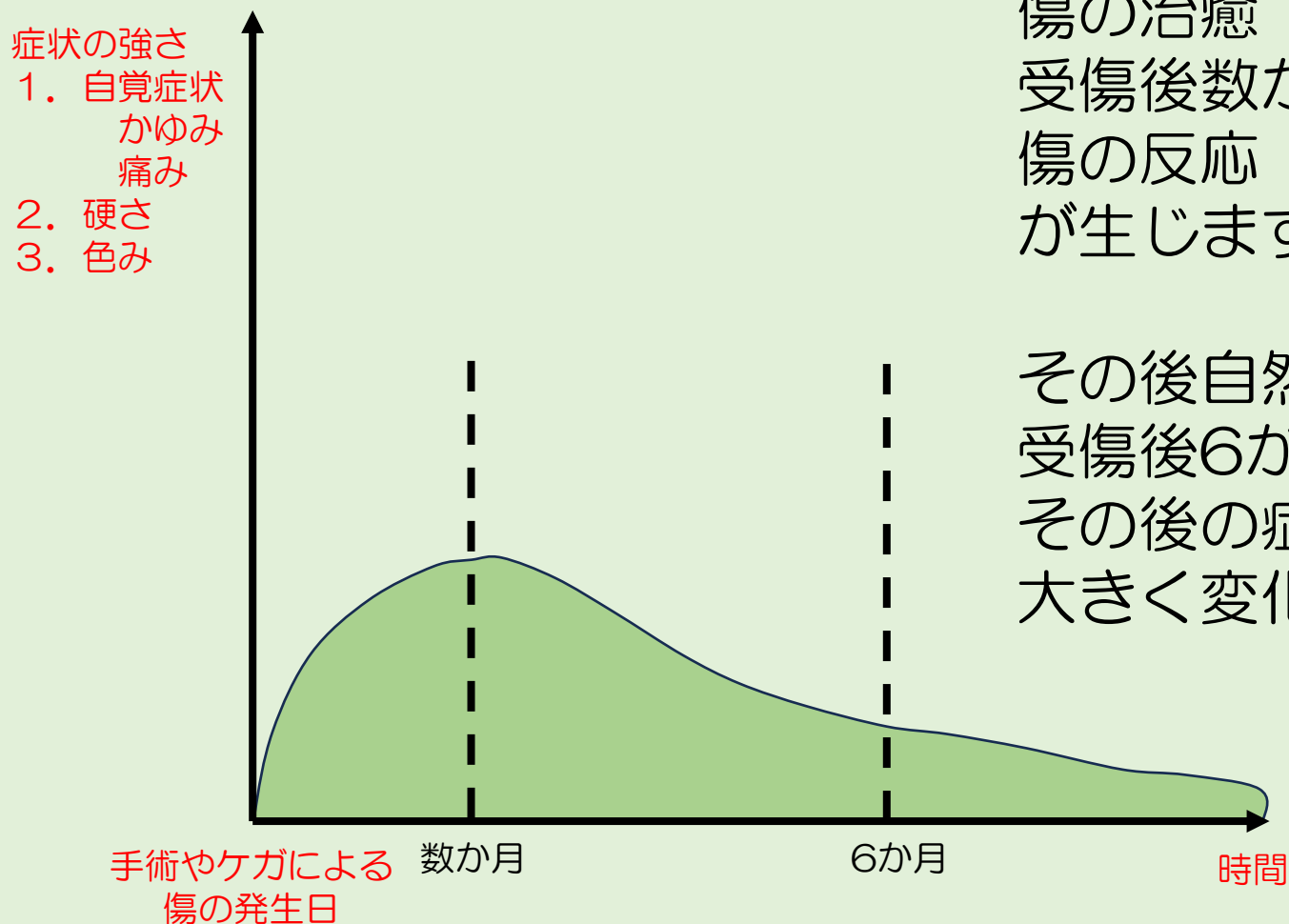
クリニックの公式LINEを通じた受診前相談も可能です。
お気軽にLINE相談、診察予約をお取りいただければと思います。

日本形成外科学会専門医／領域指導医／レーザー分野指導医、創傷外科専門医、再生医療認定医、医学博士
鍵本慎太郎

1. 傷あとについて 1. 傷と傷あと

- ケガや手術などで傷（キズ）ができ、その傷が治癒することで傷あととなります
 - 傷の治癒（創傷治癒）がうまく進むことで傷あとも目立ちにくくなります。
 - 逆に創傷治癒の妨げがあると、最終的な傷あとが目立ちやすくなったり、治療に時間がかかります。
- 傷あとをきれいに治すためには、傷をしっかり治すことが最初の重要なステップとなります。

1. 傷あとについて 2. 正常の傷あと

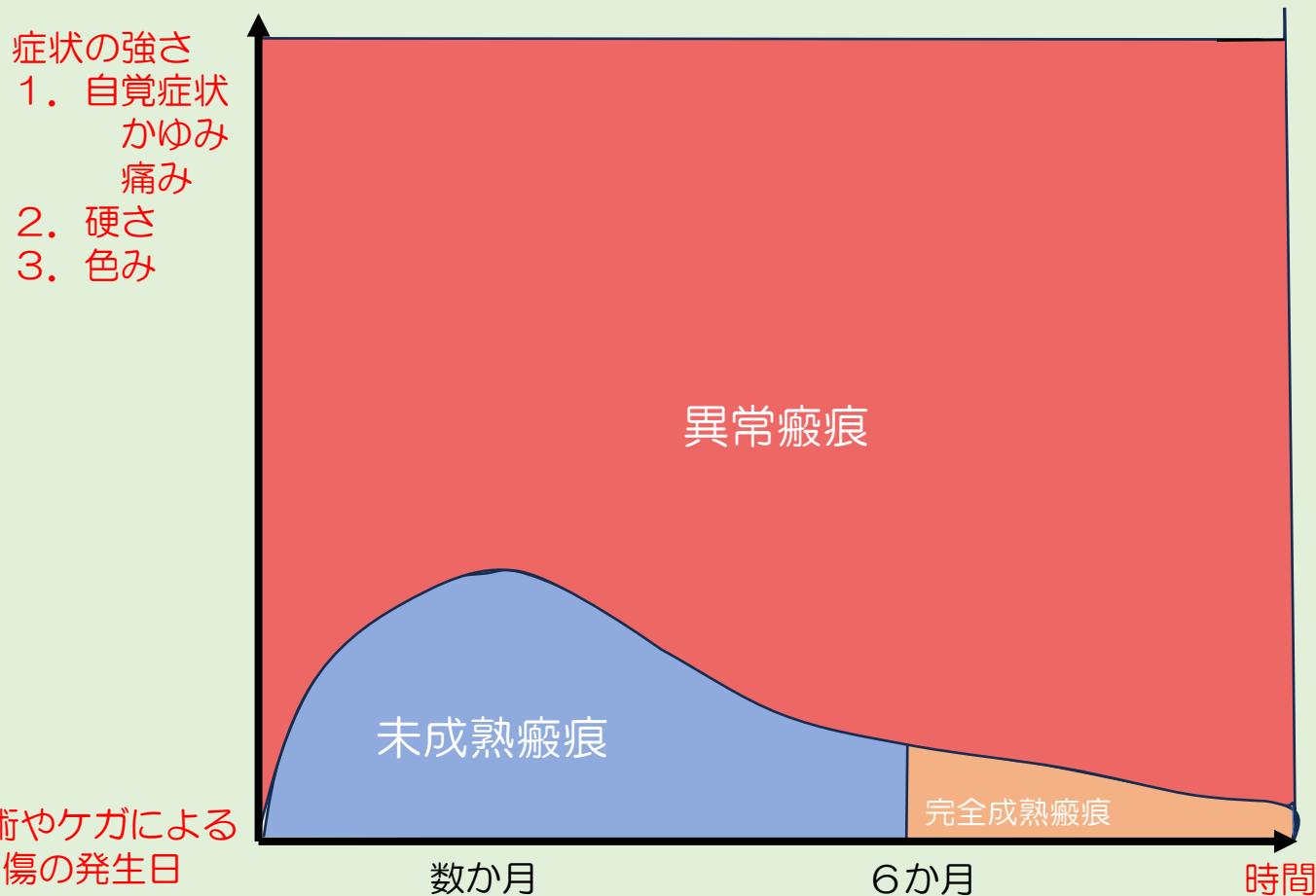


傷の治癒（創傷治癒）が正常の場合でも、受傷後数か月くらいをピークに傷の反応（かゆみや痛み、硬さ、赤さ）が生じます。

その後自然に落ち着いていき、受傷後6か月～1年程度で概ね落ち着きます。その後の症状は大きく変化しないことが多いです。

1. 傷あとについて 3. 傷あとの分類（鍵本分類）

傷あとにはいろいろな分類方法がありますが、私は下記の分類を利用しています。
まず正常の傷あとなのか異常な傷あとなのかを判断し、その後詳しく診断していきます。



1. 正常癒痕：正常な治癒過程にある傷あと
 - 1-1) 未成熟癒痕
正常治癒過程にある受傷後半年以内の傷あと
 - 1-2) 完全成熟癒痕
正常治癒過程にある受傷後半年以降で、異常癒痕の性質がない傷あと
2. 異常癒痕：正常治癒過程にない傷あと
もしくは機能障害の原因となる傷あと
例：ケロイド、肥厚性癒痕、癒痕拘縮など

典型的な異常癒痕の症状として
下記の症状が単独または複数生じます。

- 自覚症状（かゆみ、痛み）
- 硬さ
- 色（赤さ、赤黒さ、白さなど）
- 傷幅の広がり、ふくらみ、凹み
- その他

※ 稀な疾患の場合もありますので、あくまでも目安としてお考え下さい。

2. 未成熟癒痕の状態と治療

- 傷はふさがり傷あととなっていますが、まだ傷あと部分で反応が続いている状態です。赤みやかゆみ、硬さ（しこり）や痛みが出ることもあります。
- 自然経過でよくなっていくことが多いですが、後述するような異常癒痕を形成しやすい要因があると、改善しにくい（しない）ことがあります。
- **創部に負担がかからないように、下記の対応・ケアが重要です。**
 - 保護（擦れや引っ張り、搔破などに注意）
 - サージカルテープ、保護テープ、軟膏、サポーター、原因の除去など
 - 保湿
 - 化粧水、ローション、クリーム、軟膏など
 - 遮光
 - 日焼け止め
 - その他
 - 内服など

3. 成熟癍痕（完全成熟癍痕）の状態と治療

- 傷あとの反応が落ち着いてこれ以上変化しない状況を総称して**成熟癍痕**とといいます。私は成熟癍痕でかつ、異常癍痕のような問題がない状態を**完全成熟癍痕**と定義しています。成熟癍痕でかつ異常癍痕の場合（色味や幅などの問題がある場合）は**不完全成熟癍痕**と定義します。
- 完全成熟癍痕の場合は治療の必要ない状況で、目指すべき一つのゴールになります。
- ただ、それでも傷あとが気になる場合、精神的なサポートやメイクやテープなどでのキズの保護などを行い、症状を和らげる相談を致します。

(前のスライドの図)
完全成熟癒痕と不完全成熟癒痕 イメージ図

- 症状の強さ
1. 自覚症状
かゆみ
痛み
 2. 硬さ
 3. 色み

異常癒痕

不完全成熟癒痕

未成熟癒痕

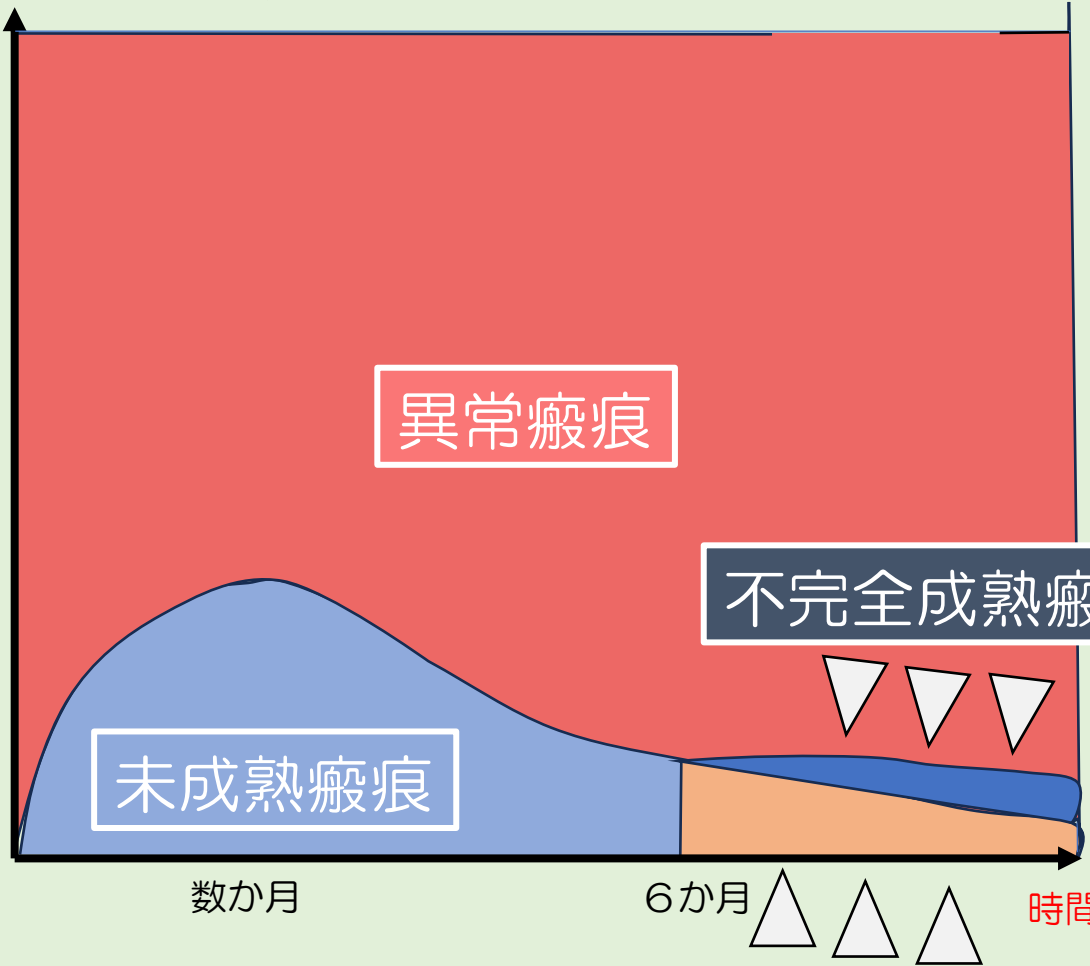
手術やケガによる
傷の発生日

数か月

6か月

時間

完全成熟癒痕



4. 異常瘢痕の状態と治療 1. 原因

1. 局所要因

- ★創傷治癒不全
 - ・異物反応（糸）
 - ・創部感染
 - ・創部緊張

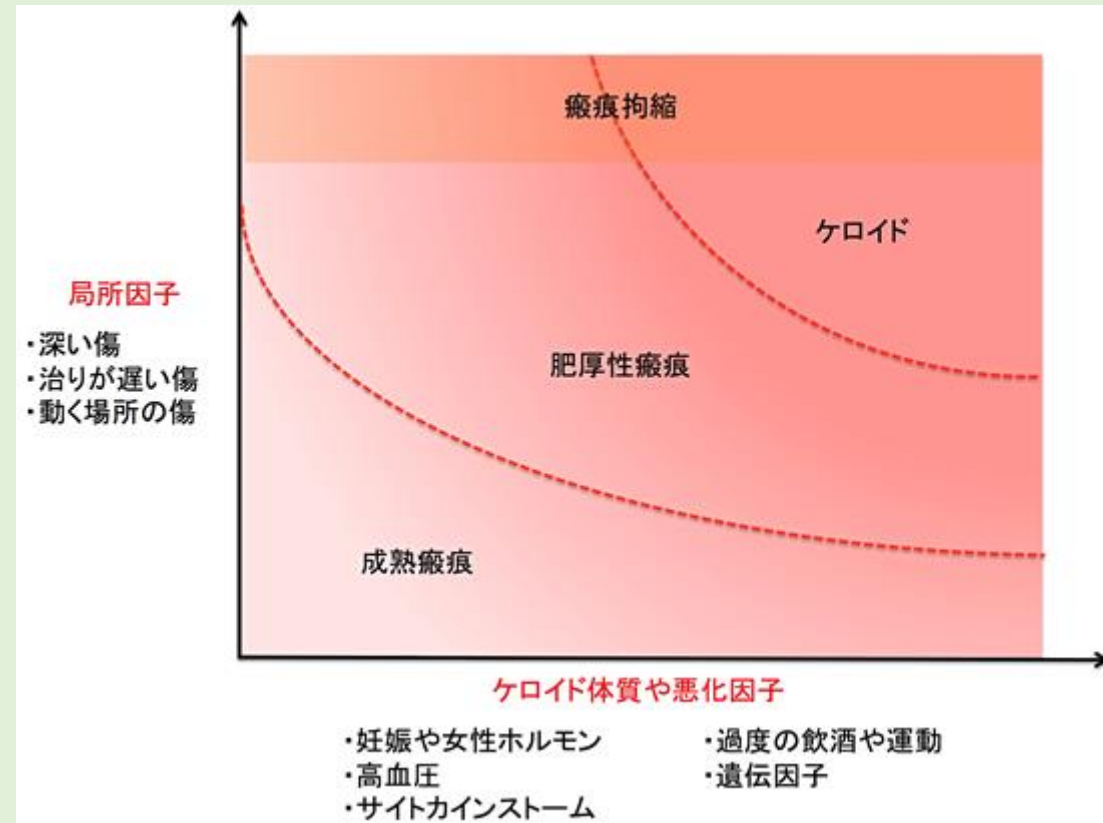
★部位

- ・創部に力のかかる場所

☆その他

2. 全身要因

- ★体質（遺伝因子）
- ★妊娠や女性ホルモン
- ★高血圧
- ★過度な飲酒や運動
- ☆その他



4. 異常瘢痕の状態と治療 2. ケロイド・肥厚性瘢痕の場合

傷あとの治療の中で、最も難しいところです。当クリニックの診療のみで根治させることは難しい場合もあります。傷あとが膨らみ、広がりかゆみや痛みを伴います。炎症性粉瘤を合併することがあります。肥厚性瘢痕はケロイドより症状がマイルドですが、傷あとの反応が長引き落ち着かない状態を指します。

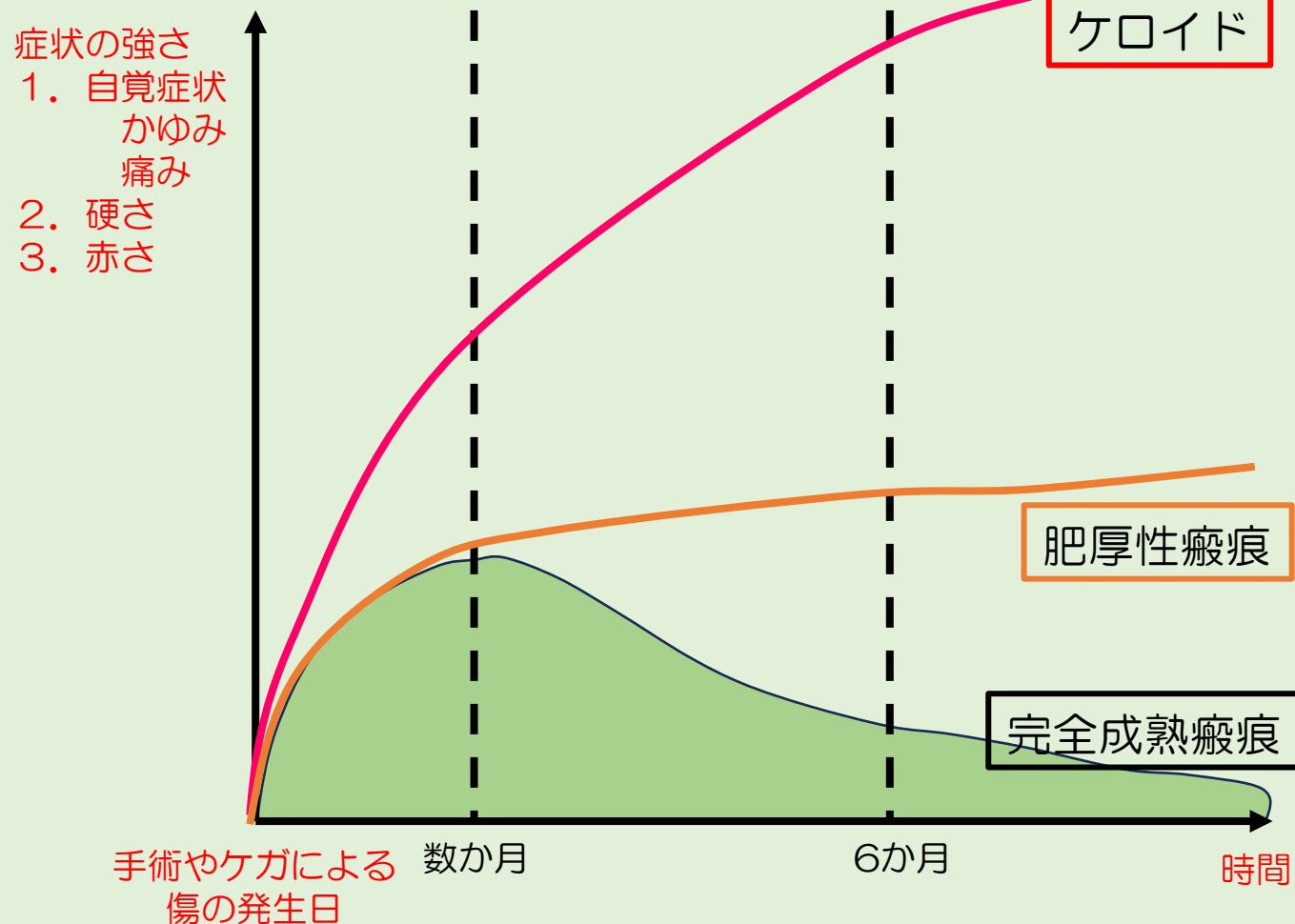
私の治療のコンセプトは下記のとおりです。

1. 早期発見
2. 早期治療介入
3. 原因に対する介入治療
4. 治療効果の定量化

ケロイド・肥厚性瘢痕の治療は大変難しいです。原因を考察し、治療効果を判断しながら、現在の症状を改善できるように治療を行ってまいります。基本的に保険治療で行いますが一部自費治療を含みます。

治療法の例

- ・軟膏クリームによる保護、治療
- ・圧迫療法
- ・ステロイドテープ貼布
- ・ステロイド注射
- ・外科手術
- ・放射線治療（他院紹介）



4. 異常癒痕の状態と治療 3. 癒痕拘縮の場合

傷あとの硬さにより、
関節の動きが皮膚性に悪くなることを総称して癒痕拘縮といいます。
また気管切開後の癒痕が嚥下時にひきつれるなど、特殊なケースもあります。
原因となっている癒痕の状態により治療を行ってまいります。
基本的に手術治療が選択肢になります。

手術治療は傷あとを切除致します。
切除後の傷あとが再度拘縮の原因とならないように、
皮弁形成などのテクニックを利用し予防します。
また術後は固定やりハビリが必要になることもあります。

現状の状況により治療法が大きく変化するので、癒痕拘縮を疑う場合は診察医に相談ください。基本的に保険治療の対象となります。

4. 異常瘢痕の状態と治療 4. 色調異常

赤さ：血管（赤血球）の色み、炎症反応や入浴などで体があったまった場合、擦れている場合など

赤黒さなど：炎症の反応が落ち着いてきている場合

暗さ・黒さ：炎症が完全に落ち着いているが色素沈着が残る場合

白さ：メラニンの細胞脱失が起き、皮膚の色がでない場合

それぞれ原因を解明し、症状に合わせた治療を行います。
基本的に自由診療での治療となります。

4. 異常瘢痕の状態と治療 5. 形態異常（傷幅の広がり、ふくらみ、凹み）

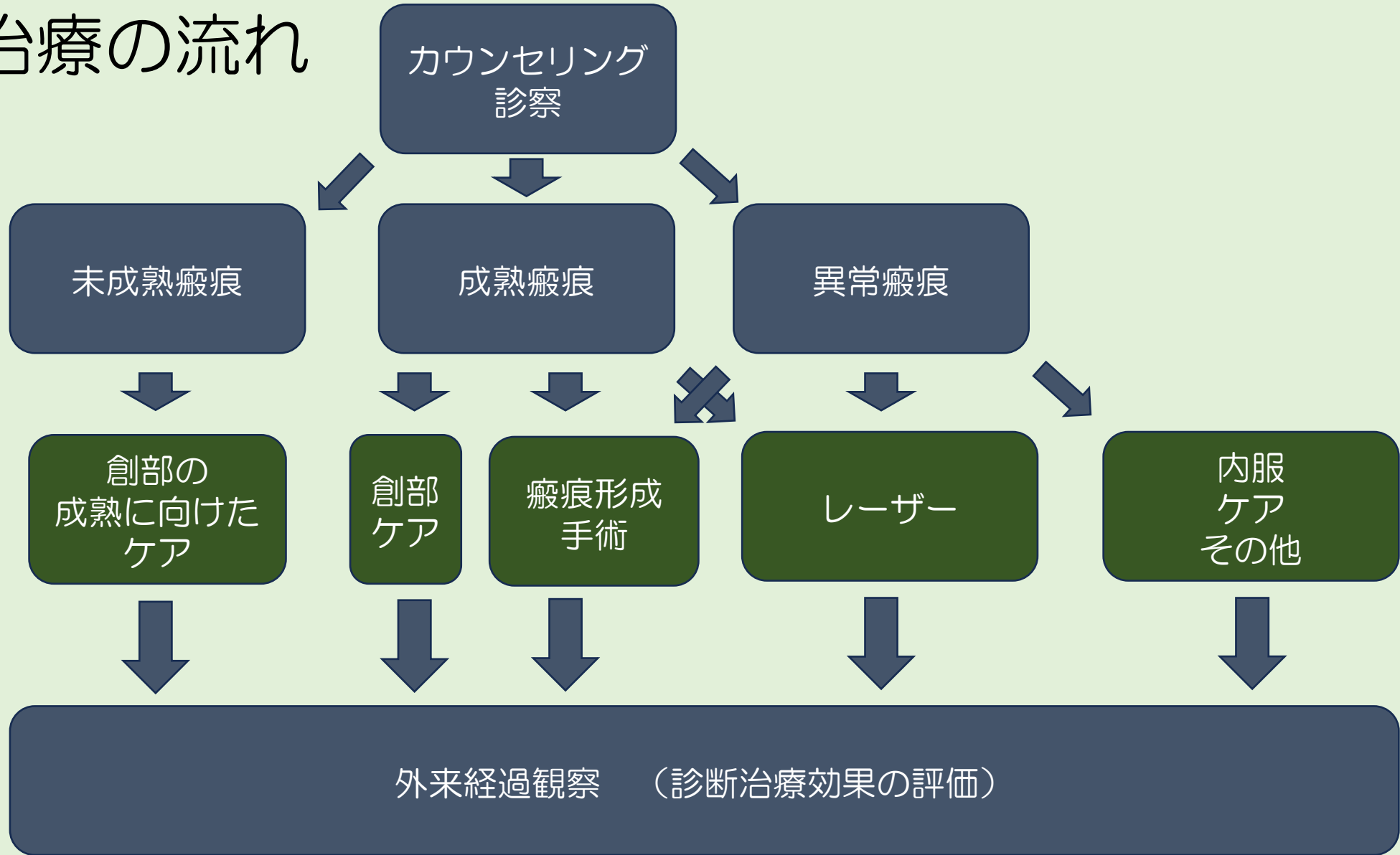
傷幅の広がり、膨らみはケロイド肥厚性瘢痕で生じることがあります。その場合の治療は2を参照ください。

成熟瘢痕で傷幅の広がり、ふくらみ、凹みが生じる場合、私は不完全成熟瘢痕と呼んでいます。

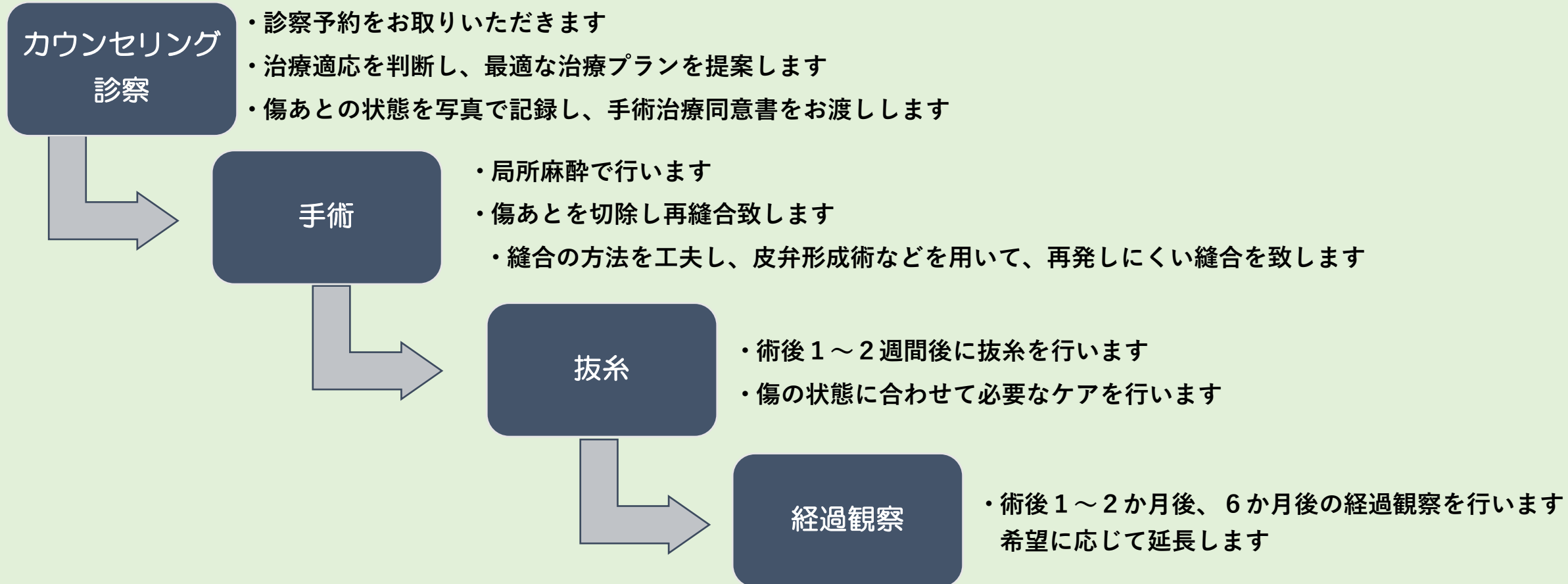
この場合、症状に合わせて、外科治療もしくはフラクショナル・POTENZA（ポテンツァ）などのレーザー治療を行います。

いずれの場合も自由診療での治療となります。

5. 治療の流れ



5. 治療の流れ(瘢痕形成手術の場合)



12. 医師LINE相談・予約方法

2023年11月現在、
渋谷院で保険治療、新橋院で自由診療
(レーザー治療含む)をおこなっております。
診察はどちらのクリニックでも可能です。
(診察日程を別途確認ください)

渋谷皮膚科クリニック

<https://page.line.me/758dbulh?openQrModal=true>



新橋美容クリニック

<https://www.oneday.or.jp/page/9>



LINEでのお問い合わせ方法



- 図1
- ①当院の公式LINEを開きます。
 - ②図1 赤矢印の箇所「Reservation」をタップ。
 - ③画像を右にスライドすると出てくる図2「形成外科予約・相談」をタップ。



- 図2
- ④表示される文章をご確認いただき、必要事項をご返信ください。
- ※ご返信は診療時間内での返信となります。なるべく早めにご返信できるよう努めておりますが、万が一何日でも返信がない場合、恐れ入りますがお電話にてお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。また、新橋院でもお問い合わせの流れは同様です。

LINEでのお問い合わせ方法



- 図1
- ①当院の公式LINEを開きます。
 - ②図1 赤矢印の箇所「Reservation」をタップ。
 - ③画像を右にスライドすると出てくる図2「形成外科予約・相談」をタップ。



- 図2
- ④表示される文章をご確認いただき、必要事項をご返信ください。
- ※ご返信は診療時間内での返信となります。なるべく早めにご返信できるよう努めておりますが、万が一何日でも返信がない場合、恐れ入りますがお電話にてお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。また、渋谷院でもお問い合わせの流れは同様です。

6. 医師LINE相談・予約方法

• 相談方法

1) クリニック公式LINE（無料）

写真を送っていただくと具体的な説明が可能です

- 傷あとにピントを合わせてください。
- 正面からだけでなく、斜めや横からなど角度を変えて撮影してください。
- 傷あとのアップではなく、なるべく引きで撮影してください。
- 頂いた写真は診療以外では使用致しません

2) 診察カウンセリング（診察料あり）

症状を確認しながら、治療方針のカウンセリングを行います

税抜 2023年11月現在
※サイズや部位により変動あり

7. 費用目安

	施術		金額
保険診療 (3割負担の場合)	保存治療	エクラープラスター処方	約¥600
		ケナコルト注射	約¥500
	手術治療	ケロイド切除術（皮膚腫瘍切除）	約¥7,500~※
		瘢痕形成手術	約¥30,000~※
自由診療	保存治療	ハイドロキノン処方	¥2,000~
		保湿クリーム処方	¥2,000~
		テープ、保護材など	¥500~
	レーザー治療	フラクショナルレーザー	¥10,000~
		POTENZA（ポテンツァ）	¥20,000~
	手術治療	瘢痕形成手術（顔面）	¥50,000~※
瘢痕形成手術（顔面以外）		¥35,000~※	